

なんでも相談・法律相談
随時、ご相談ください

くらしのこと、どこに相談すればいいかわからないこと、お気軽にお問い合わせください

日本共産党青梅市議団

青梅市議会議員

井上たかし

活動報告 2021年4月号

ご連絡は090-8489-5260
inouetakashi99@gmail.com



小学生移動教室補助まで削る 新年度予算に反対

青梅市の2021年度予算は、小学6年生の移動教室への補助で260万円減(一人あたり2000円強)、小学校16校分の光熱水費で850万円減、同消耗品費で150万円減といった削減が行われました(中学校も同様)。

その一方で、「マイナンバーカードの普及」のためには、市役所の1階に2700万円もかけて「発行ブース」を設置するとしています。

6年生は中学入学の準備もあり、お金がかかります。コロナ禍で収入減の家庭が増え、不安への配慮や勉強の遅れなど、子どもたちへのケアに先生たちは苦労しています。



517億円の市の予算の中で、節約するところが間違っています。また、身近な公共施設削減、コロナ対策が不十分といった観点から、日本共産党青梅市議団は、新年度予算に反対しました(自民、公明、市民フォーラムの賛成で予算は可決)。

印刷代やエアコンも節約に

印刷代節約のため「子どもたちに配布する資料が刷れない」「PTAも学校に印刷代の負担を求められる」との声が、もともと聞こえていました。

さらに、節約を強ければ、コロナ禍の対応にも影響がでかねません。

今までも「夏にあまりエアコンをつけると、冬の暖房代がなくなる」と言われてきました。コロナ対策で換気が必要なのに、光熱水費を減らして大丈夫でしょうか？」(市内小学校職員)

発熱外来に対応した新休日診療所

市の休日診療所は、新型コロナ以降、発熱等の患者さんには屋外で対応していましたが、患者さんの動線を分けることができる新しい休日診療所の建設が始まりました(健康センター横、駐車場内)。完成は6月末の予定です。「『発熱難民』を生まないように、発熱外来の強化を」と私たちも求めています。



ジェンダーフリー社会に向けて

オリンピック組織委員会での女性蔑視発言など、日本は「ジェンダー後進国」です。「女性なんだから」「男なのに」といった性別による「役割」の押しつけや性的マイノリティ(性的少数者)の差別の解消など、ジェンダーフリー社会にむけ、二つの角度から一般質問を行いました。

女性職員が少ない青梅市

多摩26市で市の一般職員に占める女性の割合は、5割以上が4市、4割台が11市、3割台が10市で、2割台は唯一青梅市のみです。市政の様々な分野に女性の視点を位置付けるために、これは問題であると認識しているか、どのように取り組むか、と質問しました。市も「課題であると認識」し、改善にむけての取り組みが述べられました。

また、様々な市の業務を民間企業に委託していることも一因で、不安定雇用の増加につながり、特に女性にその影響が及んでいることも指摘しました。

みんなに優しい防災対策を

災害時に女性、男性、若者、高齢者、障害者、性的少数者に「どんなことが起こるのか」という視点で、熊本地震の教訓をまとめた資料を紹介し、災害を経験した自治体の教訓を活かして対策をとることを求めました。



質問で紹介した熊本市男女共同参画センター「はあもにい」HPに掲載されている「防災ポイントBOOK」。マンガなどで経験談がわかりやすく紹介されています。

新型コロナ対策には**両方必要**です

検査拡大
医療支援
適切な補償

と



ワクチン接種が順次行われますが、ワクチンは万能ではなく、アレルギーなどの理由で接種できない人もいます。あくまで「任意接種」であり、接種しない人が不利益を被ることがあってはなりません。

これまで不十分だった検査の拡大、医療機関への支援や保健所の体制強化、減収の補填や生活支援策の充実とあわせてワクチン接種を進めることが重要です。

青梅市ワクチン接種の概要

ワクチン接種は、週末に総合体育館(固定)、市民センター体育館(移動)で行われる集団接種が基本で(平日や夜間も別途設置)、予約制です。今後、ワクチンの追加など、情報は随時更新されます。ご不明な点などはお問い合わせください。

コミュニティバスの実現を！ 「地域公共交通計画」策定へ

コミュニティバスの実現など、暮らしの「足」を確保することは、高齢化が進む中、急務となっています。



青梅市は、2004年にコミュニティバスの運行を検討したものの、これを断念して以来、既存のバスの利用を促進することを対策の中心に掲げました。

しかし、現実にはバスは減便され、市の公共交通協議会内にも「計画の見直しを」と声が上がり始めました。そして、**いよいよ2021年度から、新しい計画(地域公共交通計画)の策定を行うことが決まりました。**

今度こそ、市民のくらしの実態に合った対策を実現させなければなりません。私は、商業施設や福祉施設などとも連携してコミュニティバスを運行することなど、積極的に提案していきます。ぜひ、みなさんのご意見をお寄せください。

学校老朽化～補修工事一部実施

「学校の外壁が危険な状態ではないか」——以前より、議会で取り上げてきた問題です。市は、昨年4月に全校一斉調査を行い、危険な箇所から順次、対策を行ってきました(2020年度は、第五小、七小、霞台小、第一中、二中、三中、西中、霞台中)。

2021年度は、痛みの激しい第五小の外壁全面と屋上防水工事が行われることになりました。



正面入り口付近の外壁を補修した霞台中。トイレと一部外壁は2019年度に工事されていました。



4階から外壁が落下した第一中。補修が行われましたが、築54年の建物で、全面的な工事が必要です。

コロナ禍 競艇の売り上げ急増 ギャンブル依存症拡大の懸念

近年、青梅市が主催している競艇(多摩川ボートレース)の売り上げが急増しています。

要因の一つはテレビなどでの大宣伝で、若者や女性の購入が増えていることです。

もう一つは、スマートフォンで全国の競艇場のレースが購入可能になり、ほぼ毎日、どこにいても賭けられるようになったことです。

さらに、コロナ禍で競馬、競輪など、公営ギャンブル全般の売り上げが拡大しています。

その結果、青梅市の収入も増え、病院や一般会計に繰り入れが行われています。同時に、ギャンブル依存症の拡大が心配ですが、対策は不十分です。

私は、「拡大路線を続けるのは危険」という観点から、来年度予算に反対しました。

市の想定以上!? 急増する売上げ

競艇場やインターネット販売の売り上げが中心となる市の「競争事業収益」は、わずか4年で2倍を超えました。

2017 年度
予算 322 億円
決算 349 億円

2018 年度
予算 377 億円
決算 425 億円

2019 年度
予算 457 億円
決算 523 億円

2020 年度
予算 511 億円
補正後 669 億円

2021 年度
予算 647 億円

4年で2倍超